

いのちのちに寄り添う

遺された者の立場から

生きてると私たちは自ずと死を迎えることとなります。

その過程の中で自ら死に至らざるを得なかった方々がおられ、「自殺／自死」として理解されています。

ただ、その「自殺／自死」についてはまだまだ正しく理解されていない側面も存在します。

本シンポジウムでは「自殺／自死」というものを、遺族の方々に寄り添う視点のもと、今一度振り返り、皆さんと一緒に考えてみたいと思っています。

日時 2022年

9月18日(日)

14:00～16:00

場所 Zoomによる

オンライン開催

参加方法

Googleフォームによる事前申込

9/10(土)まで

右記QRコードよりアクセスしてください



シンポジスト

遺族・遺児の心の在りようから見る「自殺／自死」というもの

倉西 宏氏

京都文教大学臨床心理学部 准教授／
京都文教大学グリーフケアトボスCo*はこ代表、
臨床心理士・公認心理師

学生時代から遺児支援活動に取り組み、遺児支援団体「あしなが育英会」で臨床心理士としても勤務する。遺族・遺児支援のグリーフケア活動とその理解のための研究を20年に亘り続け、現在は京都文教大学にグリーフケア活動の拠点を作り活動中。

自殺への偏見の解消に向けた提案—
自殺の再定義と遺族支援の再検討

大倉 高志氏

岡山県立大学 准教授／
精神保健福祉士／社会福祉士

父親を自殺で亡くした遺族の一人として、京都大学大学院医学研究科で開始した遺族支援研究の12年間にわたる成果を著書「自殺で遺された家族が求める支援」としてまとめ、公刊した。自殺という亡くなり方を取り巻く社会的な偏見の真の解消と遺族支援施策の発展に向け取り組んでいる。

指定討論者・座長

濱野 清志氏

(一社)京都府臨床心理士会 会長／京都文教大学 教授

京都大学法学部および教育学部を卒業後、大学院で臨床心理学を学ぶ。1990年から九州大学助教授として学生相談に携わり、2002年から京都文教大学で臨床心理の後進の育成にあたる。「気」の研究によって京都大学博士(教育学)を取得。長年、心理臨床の実践とともに気功の実践と指導も行なっている。